

乳がんの治療指針 ～標準治療と診療ガイドライン～

乳がん治療を受けられる患者さんに、「あなたにとっての標準治療は・・・」と説明しだすと、「私は『並みの治療』ではなくそれ以上の治療を希望します」と言われる方がたまにおられます。ここでいう「標準」とは上・中・下の中ランクという意味ではないのですが、まだまだ誤解があるようですので今回は乳がんの標準治療について解説します。

一昔前まで乳がんを含めたがん治療、特に術後の薬物療法などは医師の裁量に委ねられていました。すなわち、医師の出身大学の方針や、先輩から教わった治療法にならって治療するというのが一般的であり、また大家の意見だからそれに従うとか、自分自身の経験を最優先する、などもまかり通っていました。結果として、治療方針は施設間のみならず医師間でも微妙に異なっていました。

こうした非科学性を是正すべく、治療の均てん化(どこの病院でも同じ方針で治療を受けられる)ということが言われ出したのは1990年代後半のことです。その頃から科学的根拠に基づく医療(エビデンス・ベースト・メディシン)ということが強調され、各領域で科学的根拠に基づく治療の標準化がなされ、ガイドラインづくりが盛んとなりました。乳がん領域では他領域に先駆けて、医療従事者向けあるいは患者さん向けのガイドラインが日本乳癌学会の公的刊行物として刊行され、定期的に改訂されています。

医師向けガイドラインは2004年の初版以来数回改訂されており、現在のものは2013年版です。このガイドラインのお蔭で、乳腺専門医の在籍する病院であれば治療内容の格差は急速に縮まりました。

一方、患者さん向けのガイドラインは、初版は2006年版で、患者さんやそのご家族が知りたいことについて、正確な情報をわかりやすく解説したものです。実はこちらの方はごく最近改訂されたばかりで、「患者さん向けの乳がん診療ガイドライン2014年版」として金原出版(東京)から発売されています。大手の書店で購入可能ですし、また日本乳癌学会のwebサイト(<http://jbcspfguideline.jp/>)からも閲覧可能です。ただし、webで公開している患者さん向けガイドラインは今の時点(2014年8月)では2012年版です。

ところで、マスコミで「最先端の乳がん治療」と銘打って取り上げられる内容は、まだ基礎的な実験段階のものですぐには臨床応用できないものが少なくありませんので注意が必要です。標準治療は、現在の臨床現場で使用できる最善の治療法と言えるでしょう。



KAZUKA

詳細は乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

